

病防第108号  
平成29年12月5日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イネいもち病におけるQoI剤（ストロビルリン系）耐性菌の発生状況及び  
防除対策（技術情報第11号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用  
下さい。

## 記

県内のQoI剤耐性いもち病菌の新たな広がりには確認されなかったが、既発生地域では引き続き発生が確認された。発生拡大を防ぐため、今後も従来の使用制限と塩水選や種子消毒を徹底する。

### 1 目的

平成25年に県内で初めてQoI剤耐性いもち病菌（以下耐性菌）が確認された。県内での耐性菌の広がりを確認するために調査を実施した。

### 2 発生状況（表1）

7～9月に管内30ほ場で採集したいもち病菌について、PCR-RFLP法により耐性菌の有無を調査した結果、

- （1）これまでの調査で耐性菌が確認されていない阿蘇及び天草地域では、本年も発生は確認されなかった。
- （2）既発生地域では本年も耐性菌が確認された。耐性菌検出ほ場率は13.3%であり、年次による変化はあるが、耐性菌の発生は続いている。
- （3）耐性菌が検出された地域内には未検出のほ場もあったことから、同一地域に耐性菌発生ほ場と未発生ほ場が混在していると考えられた。

### 3 防除対策

耐性菌の発生拡大や既発生地域での耐性菌のまん延を防ぐため、以下に注意する。

- （1）採種ほ場及びその周辺ほ場ではQoI剤を使用しない。
- （2）購入種子を使用する場合も塩水選と種子消毒を徹底する。
- （3）耐性菌の発生リスクを低減させるため、QoI剤の使用は育苗期から本田期を通じて年1回とする。また、使用に関しては以下を参考にする。
  - ・QoI剤を含有する育苗箱処理剤を使用したほ場では、出穂期前後の穂いもち防除にQoI剤以外の系統の薬剤を使用する。
  - ・穂いもち防除にQoI剤を使用したほ場で防除効果が低かった場合は、QoI剤以外の系統の薬剤で追加防除を行う。

表1 QoI 剤耐性いもち病菌の発生状況

地域名		採集ほ場数	耐性菌	
			検出	未検出
未発生地域	阿蘇	4	0	4
	天草	6	0	6
既発生地域	熊本	2	1	1
	宇城	2	0	2
	玉名	-	-	-
	鹿本	1	1	0
	菊池	2	0	2
	上益城	4	1	3
	八代	2	0	2
	芦北	4	1	3
	球磨	3	0	3
	計	30	4	26
耐性菌検出ほ場率	H29	13.3%		
	H28	30.0%		
	H27	18.1%		
	H26	26.5%		

注1) 採集ほ場でのQoI 剤の使用の有無については不明である。

注2) 数値はほ場数を示す。

熊本県病虫害防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病虫害研究室 予察指導係)  
 担当: 春山、加賀山 TEL 096-248-6490